

『エンフィット：IS080369-3の適応は、 液体と気体だけ、半固形やミキサー食は適応外！』

コロナ陽性患者が減り、緊急事態宣言解除の方向で動いています。活動制限を一気に解除する、という考え方もあるようですが、それは止めたほうがいい、大きなリバウンドが来るような気がします。専門家ではないので、気がする、だけなのですが。段階的に解除するのが適正な判断だと思います。とにかく、ふつうの生活ができるように、一日も早く、と祈っています。(9月30日で全面解除になりました)

ゼン先生の栄養管理講座、これまでは、いろいろ、毎日の生活や活動に変化があったから、いろいろ、書くことや報告することがあったのですが、ついに、ネタが尽きるか、そんな思いでこの9月を過ごしました。かつてのゼン先生の栄養管理講座を読むと、本当、こんなにあちこちに行っていたのか、と正直、驚きます。10年前はもっとすごかった。それは、臨床栄養の領域に勢いがあったことを意味しています。ここ何年かは、確かに勢いがなくなっています。コロナのせいではなく、臨床栄養の領域自体が尻すぼみであることを認めざるをえません。だから？といてもいいのですが、とにかく、コロナの影響が大きいので、掲載する写真がほとんどありません。全国の友人にお願いしたら、いろいろ送ってもらえるかとは思いますが・・・この写真、掲載してください、なんて、言ってきて欲しかったなあ、とばかなことを考えたりもしました。しかし、ここでこの連載を止めたくない、中断したくない、のです。次号は10月25日くらいから書き始めますので、覚えていたら、写真など、送ってください。とにかく、今号をなんとかしなければ、という思いで、書きながら考えます。

9月4日には大事なイベントがありました。Medical Nutritionist Web 講演会シリーズ5を開催しました。もう5回目か、と思いながら、医療法人青仁会池田病院の田中誠先生、医療法人桐葉会木島病院の松末智先生に講演していただきました。田中先生の胃瘻・経腸栄養の講演では、経鼻胃管を挿入する時、経腸栄養を開始する時に承諾書をとっているか？という質問があり、ちょっと、どきっとしました。結果は、とっていない施設が多い、でした。田中先生の栄養に対する熱い思いが伝わりました。松末先生の講演は精神状態と栄養についてで、この講演内容は初めて聞いた方が多かったと思います。かなり刺激になったはずです。栄養管理の効果について、はっとした方が多かったのではないのでしょうか。栄養状態が良くなると患者が精神



↑ Medical Nutritionist Web 講演会シリーズ5です。画面の写真です。松末先生の背景はなんか、いいですね。田中先生は池田病院の部屋ですね。私は背景がぼかかしています。

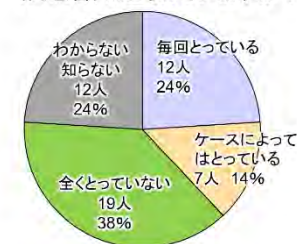


↑ 田中先生の前振りの写真。でかい！こんなのが釣れるの？鹿児島って。ウミガメまで釣る？次の講演の時、是非、釣りに連れてってください。

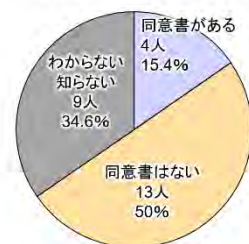


↑ Web 講演、インターグループのオフィスでの写真です。松末先生と久しぶりに写真を撮りました。やっぱりネクタイを締めて講演すべきだったかなあ？

経腸栄養を行うにあたり同意(同意書)はどうしていますか？



同意書はありますか？



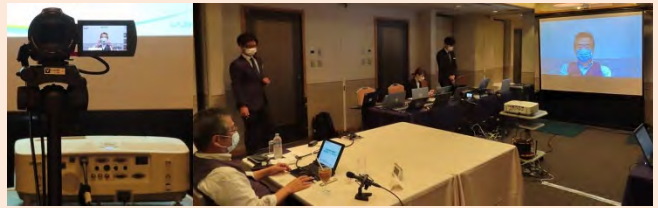
↑ Medical Nutritionist Web 講演会シリーズ5：田中先生の講演の際のアンケート結果
経腸栄養を行う時、同意書をとっていないとの回答が多かったし、同意書がないとの回答が多かった。

的にも明るくなった、そんな経験をしていたことに気付いたという感想が聞かれました。精神面でも栄養管理は効果があるのです。栄養状態がいいほうが、元気だし、気分的にも明るい、誰もが実感しているはずです。非常に有意義な講演会でした。私はENFitについての話をしました。

9月6日は武田薬品工業のウェブ講演会。千里阪急ホテルから発信。ここに何回行ったかなあ。専門の方が配信してくれるので、ビデオカメラもマイクも、すごかった。パソコンが10台くらいありました。

9月18日には東京で開催された「PEG・在宅医療学会」にオンライン参加しました。興味深い発表もありました。でも、質疑応答が十分にできなかったのは残念でした。オンラインなので仕方ないですね。PEGの猛者は相変わらず気合が入っているなあ、そんな思いで拝聴させていただきました。

9月25日には、第10回日本栄養学教育学会学術集会の10周年記念講演で講演しました。これもオンラインでタイトルは〔漢字「栄養」のルーツをたどって〕。理事長の中村丁次先生が機会を作ってくださいました。2018年11月25日に松山で「栄養100年記念」として話した内容にいろいろ色付けをして、でした。あの時は時間がなくて、いろいろ端折って講演するしかなかったのです。中村先生にバージョンアップしていると言っていました。管理栄養士教育についての学会なので、最後に「おこがましいと思われるかもしれませんが、静脈栄養、経腸栄養を管理栄養士が修得すべき重要な領域としてください」と言わせていただきました。この講演は、私にとって非常に楽しい講演です。このネタで、もっと、講演したい！



↑ 武田薬品工業のウェブ講演会。千里阪急ホテルから発信。ここに何回行ったかなあ。専門の方が配信してくれるので、ビデオカメラもマイクも、すごかった。パソコンが10台くらいありました。



↑ 青森の田沢くんから、今年も嶺さきを送っていただきました。うれしい！今年の出来は悪かった、とのことですが、そんなことはありません。うまい！甘い！でした。何人かにおすそ分けしましたが、絶賛でした。返礼品？やはり、八幡浜のじゃこ天にしました。田沢くんに竜飛岬へ連れて行ってもらったのは、もう2年前のことになるんです。また青森に行きたい！



↑ 愛媛県西宇和郡伊方町の亀ヶ池温泉の本館が焼失しました。いい温泉なんです。焼失の原因は落雷だそうです。復興のための寄付金を集めています。是非、寄付してあげてください。ふるさと納税でも可能です。帰省した時、行きたいのです。よろしく願います。

ゼン先生：9月はどこへも行きませんでした。オンラインで3回講演しました。リーダーズの第5回ウェブ講演会は地下鉄中津駅の近くのインターグループのオフィスへ行っただけ、武田薬品工業の講演は近くの千里阪急ホテルへ行っただけ、でした。松末先生はウェブ講演会場に来てくださいました。

小越先生：会ったのは随分久しぶりなんじゃないか？

ゼン先生：いえ、この間、奈良でお会いしました。

小越先生：ああ、そうだったな。松末先生は、おいくつ？相当な歳だろう？

ゼン先生：75歳にはなっていないと思いますが、お元気です。ずっとアカデミックに活動しておられるので、本当にすごい、ですよ。

小越先生：そうだな。今でも新しい領域に取り組んでいるんだから、本当、すごい。オレもそう思う。

ゼン先生：若い人たちが、負けないようにがんばろう、と思ってくれたらうれしいんですけど。

小越先生：そうだな。

ゼン先生：今回は、松末先生の講演を聞いて、私は刺激を受けました。

小越先生：それはよかった。

ゼン先生：しかし、どこへも出かけられないのは寂しいです。

小越先生：それは仕方ない。この状況であちこちに講演に出かける、それはないだろう。

ゼン先生：でも、医療者はワクチンを2回接種しているのだから、学会は開催できるはずですよ。

小越先生：しかし、ブレイクスルー感染が問題になっているじゃないか。

ゼン先生：そうなんです。情報がいろいろあって、どれを信じたらいいのかわからなくなっています。

小越先生：本当にそうだな。専門家がたくさんいて、誰の意見を信じたらいいのか、困っているんじゃないか？

ゼン先生：そんな気がします。

小越先生：またまたコロナの話題から始まったな。

ゼン先生：避けられない話題ですから。

小越先生：明るい話題はないのか？

ゼン先生：照ノ富士が優勝しました。新横綱で優勝したのは非常に少ないのだそうです。

小越先生：白鵬がコロナで欠場だったんだろう？今の段階で照ノ富士に対抗できる力士はいないだろう。

ゼン先生：大関正代、貴景勝、二人とも8勝7敗でした。朝の

山は不祥事で1年間の休場ですから、どうしようもありません。日本人力士、どうした！ですよ。

*9月27日、横綱白鵬が引退しました。22歳で横綱になって14年間。在位84場所で45回の優勝。半分以上、優勝しているのですから、すごい。いろいろ批判もありますが、すごい横綱であったことは誰も否定できないでしょう。（今回は、相撲関連の写真を集めてみました）



↑ 明るい写真はないか？9月22日の青空、秋空の写真です。大阪大学です。



↑ 別府へ講演に行った時に双葉山記念館へ行きました。69連勝って、ものすごい記録です。当時は年2場所だけだったので、69連勝って、3年間、負けなかったのです。3年間！！この時、ここから別府へ戻ったのですが、高速道路を降りた時、一時停止違反で捕まったので、忘れられません。



↑ 左は故郷の横綱前田山。叔母の結婚式に来ていたので、私は会ったはずなんです。4歳くらいだったので全く覚えていません。秀ノ山は江戸時代の力士なので知りませんが、気仙沼市へ行った時に見つけた銅像です。佐田の山は知っています。五島列島へ「祈る龍馬像」を見に行った時に見ました。朝潮はもちろん、知っています。徳之島へ講演に行った時の写真です。眉毛が濃くて胸毛がすごかったことを覚えています。朝潮が引退した時、私は8歳だったのに、よく覚えています。

小越先生：本当だな。モンゴル勢がすごい。しかも、照ノ富士は、相撲界を背負って立つ、そんな気概がある。もはや相撲は日本の国技だ、なんて偉そうに言えないような感じもある。

ゼン先生：本当にそうです。それと同じような感覚なのが、大リーグで大活躍の大谷翔平です。

小越先生：すごい活躍だ。ホームラン王をとれるかな。

ゼン先生：無理かもしれません。勝負してくれないんですから。この間なんか、3試合で11回の敬遠です。

小越先生：打たしてくれないんだ。

ゼン先生：打つ機会が少なくなれば、ホームランを打てませんよ。日本人にホームラン王をとらせたくないのでしょう。

小越先生：チームの成績のための方策だろうが、そうも思える。

ゼン先生：情けない！大リーグってその程度？かと思えますよ。

小越先生：本当だ。大谷くんに頑張ってもらおう、応援しよう。

ゼン先生：ところで大谷選手の二刀流ですが、もともと二刀流って、宮本武蔵が元祖ですよね。

小越先生：そうだ、両手にそれぞれ刀をもって戦うことだ、本来は。しかし、大谷選手の出現で、投手と野手の両方を兼任する選手を二刀流と呼ぶことになったんだろう？

ゼン先生：大谷選手が新しい意味の二刀流という名称を作ったんですね。

小越先生：ベーブブルースが二刀流だったんだろう？だから、ベーブブルース以来だと騒がれているんだ。

ゼン先生：実は、ベーブブルースについて勉強してみました。ベ

ーブって、愛称なんですね。

小越先生：そうだよ。Babeって、赤ん坊って意味だ。

ゼン先生：ベーブブルースって、もともとはピッチャーとして活躍していて、バッティングもすごかったから、その後、バッティングのほうで出場することになったんだそうです。だから、大谷くんとは少し違うように思うんですが。

小越先生：そういうことなら少し違うかもな。

ゼン先生：それから、大谷選手は盗塁もするでしょう？

小越先生：そうだよ。オレも盗塁はすごいと思う。(ベーブブルースも盗塁も多かったそうです)

ゼン先生：とにかく、がんばって欲しい。明るい話題のトップは大谷選手の活躍だという人がかなり多いんですから。

小越先生：ホームラン王になって、10勝して欲しい、祈るような気持ちだ。

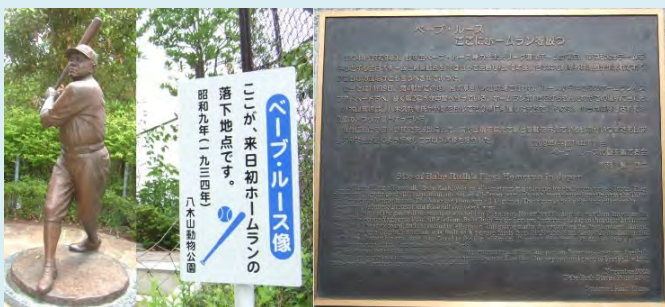
ゼン先生：私も同じ気持ちです。

小越先生：さあて学術的な話をしよう。前回、ENFitの患者側接続部の洗浄方法についての話をしたけど、新製品を説明するって言ってただろう？

ゼン先生：はい。今、開発中で、来年早々には発売できる予定です。

小越先生：どんな器具なんだ？

ゼン先生：水をジェット状に吹き付けて、ENFitのネジ部分に溜



↑ 大谷選手のおかげで、再び脚光を浴びているベーブブルースですが、日本に来たことがあります。仙台市の八木山動物公園に銅像があります。講演に仙台に行った時、私、わざわざこの写真を撮りに動物園へ行きました。10年ほど前のことです。右の説明文書の日本語は、「ベーブ・ルース ここにホームランを放つ。1934年(昭和9年)、野球王ベーブ・ルース等の全米大リーグ選抜チームが来日、東京6大学チームを中心とする全日本チームと親善試合を18回行って全勝した。2年後、日本にも職業野球連盟が生まれ、プロ野球の夜明けとも言うべき年であった。仙台では11月9日、第4戦がこの地、宮城県営八木山球場で行われ、ルースが日本で初のホームランをスコア・ボード右へ、続く2号を左中間へ放っている。ホームラン第1号を打ち込んだのがこの場所にあたる。(中略) 仙台における日米野球史を後世に伝え、時や国境を越えて夢と感動を与えている野球がいつまでも出来る平和な世が続くよう祈念してブロンズ像を建立した。2002年(平成14年11月)」です。



↑ 全部、秋田での写真です。上は2013年、下は2005年。ミーハーだから、こういう機会があると必ず写真を撮るのです。大鵬との写真は、もちろん、写真との写真です。宿泊した旅館で撮りました。



↑ 左は大鵬の本「巨人、大鵬、卵焼き」です。もうずいぶん前に読みました。真ん中の写真は、大鵬が双葉山から優勝杯をもらっている写真。右は46連勝が止まった、大誤審の写真です。この相撲からビデオ判定が導入されました。

まっている経腸栄養剤を洗い流す器具です。

小越先生：へええ、そんな器具を作っているのか？

ゼン先生：はい。この間の Web 講演会でビデオで解説しました。

小越先生：また、そのビデオを見せてくれ。

ゼン先生：はい。実物も見ていただきますので、よろしくお願
いします。

小越先生：ところで PEG・在宅医療学会はどうだったんだ？

ゼン先生：私は現地参加ではないのですが、結構盛況だったよ
うです。噂では現地参加者は 100 人ほどだったそうです。

小越先生：それは企業の人も含めてだろう？

ゼン先生：そうですね。JANVIC でも企業の人が 3 分の 1
くらいはいますから。

小越先生：君はどのセッションを視聴したのか？

ゼン先生：結構真面目に、7時半からのモーニングセミナー、シ
ンポジウムの「日本の PEG を問う」と「誤接続防止コネクタ導
入の現状と問題点」、会長講演、ランチョンセミナー、あとは、
いろいろ、でした。

小越先生：まあまあ真面目に視聴した、そんな感じもある。

ゼン先生：座って視聴すると居眠りするの、立って足踏みし
たりしながらで、歩数は 12000 になっていました。

小越先生：それは、うろうろした、その証拠だ。ちゃんと聞いた
のか？

ゼン先生：先生、私の机、立っても座っても仕事ができるよ
うに、上げ下げできるようになっているの、ご存じですよ。

小越先生：そうかそうか、そうだったな。だから？

ゼン先生：机の前に立って、ちゃんと視聴していたんです。

小越先生：わかった、わかった。

ゼン先生：今回は、誤接続防止コネクタ導入の現状と問題点、
これをテーマに話しましょう。

小越先生：それは興味深い。ENFit と L-Fit の話だな。

ゼン先生：そうです。国として、L-Fit を ENFit に変更する、こ
れは決まっているし、その方向で動いているんですが、ミキサ
ー食や半固形製剤の場合は問題がある、その議論でした。

小越先生：これまでも何回か、議論してきた内容だな。

ゼン先生：そうです。座長が名古屋大学の患者安全推進部の長
尾教授なので、厚労省の「経腸栄養分野の小口径コネクタ製品
の切替えに係る課題把握および対応策立案に向けた研究」班と
関連させたようです。

小越先生：どういう議論だったんだ？

ゼン先生：時間がなくて発表者はかわいそうでした。3 時間く

らい徹底的に議論したら面白かったと思います。発表時間は 5
分以内にしてください、でした。

小越先生：シンポジウムってのは、そもそも、じっくり発表し
てもらうためのものなんだぞ。発表時間が 5 分？それは、シン
ポジストに失礼だ。

ゼン先生：そうですね。短くても 15 分は使えるようにしてあ
げなくては。

小越先生：まあいい。終わったことだ。それより発表内容はど
うだったんだ？

ゼン先生：総じて、この切り替えは改悪だ、なぜ、切り替える
必要があるんだ、そういう雰囲気であったことは間違いないと
思います。

小越先生：確かにそうだな。切り替える必要はないのに、世界
的な動きだから切り替えなくてはならない、確かにおかしい話
だけど、仕方ないんだな、これが。

ゼン先生：そうです。そうそう、気になったのは、それぞれの
コネクタの名称です。

小越先生：用語として、L-Fit はまだ普及していないだろうけど、
ENFit はふつうに使われていたんじゃないのか？

ゼン先生：いいえ。ENFit は「ISO 80369-3：アイエスオーハチ
マルサンロクキュウダッシュサン」で、L-Fit は「888：ハチハチ
ハチ」でした。



↑ ENFit の患者側の洗浄器具です。ジェット水流で洗う方法です。
固着した汚れまで取り除くことはできませんが、それ以外はきれ
いに洗浄できます。何回も使えます。



小越先生：何い？なんで、そんな用語を使っているのか、わからん。「アイエスオーハチマルサンロクキュウダッシュサン」なんて、誰も使わないぞ。「エンフィット」をなぜ使わない？

ゼン先生：ENFit は GEDSA という ISO コネクタの導入を推進する団体に加盟している企業のみが使用できる商標だから、だそうです。

小越先生：その GEDSA に加盟していない企業は使えないということか。

ゼン先生：そうです。外資系は加盟しているけど、日本企業ではニプロだけが加盟しているのだそうです。

小越先生：ということは、ニプロ以外の日本企業は ENFit を使えないのか？

ゼン先生：そういうことです。だから「アイエスオーハチマルサンロクキュウダッシュサン」と呼ぶ必要があるんだそうです。

小越先生：それはおかしいだろう。そんな名称、病院では誰も使わないぞ。

ゼン先生：そうですね。

小越先生：それから、ハチハチハチも使わない。

ゼン先生：使わないでしょう。私もハチハチハチなんて使ったことはありません。

小越先生：オレだってそうだ。これもおかしい。カテーテルテーパーもおかしいんだから、L-Fit：エルフィットを普及させるしかないな。

ゼン先生：そうしましょう、そうしましょう。それに、エンフィットだって、ニプロ以外の企業は使えないからといって、病棟で「アイエスオーハチマルサンロクキュウダッシュサン」と呼ぶわけにはいかないでしょう。だから、エンフィットと呼べばいいんですよ。

小越先生：そうだよ。カタカナでエンフィットと呼べばいいんだよ。商標登録されているのは英語の ENFit だからな。

ゼン先生：そう思います。

小越先生：話を戻そう。このシンポジウムの目玉は何だったんだ？

ゼン先生：合田先生の発表に注目！でした。

小越先生：半固形の合田先生だな。

ゼン先生：そうです。いろいろ大事なポイントを指摘していました。

小越先生：大事なポイント？

ゼン先生：まずは、そもそも、ISO の対象は液体および気体で、粘度を有する製剤は対象外だ、という指摘です。

小越先生：へええ、そうなのか？

ゼン先生：私もそういうことは考えていなかったんです。半固形製剤は日本だけだから、日本は困るとは思っていました。半固形やミキサー食は ISO の対象外になるとは考えてもいませんでした。とにかく切り替えに対応しなければ、としか考えていなかったのです、大事な指摘です。

小越先生：わかるけど、どうしたらいいんだろう。

ゼン先生：本当に。それから、現場では、液体は注入自体は問題なく可能だけど、半固形は注入しにくい、丸山先生は差がないと言っているけど、L-Fit の口径にいろいろ違いがあるのに、なぜ、一番口径の小さい L-Fit を使って検討したのか、と指摘していました。

小越先生：それは、君が指摘したことだな。

ゼン先生：そうです。もう 2 年前にこの口径の問題は指摘しています。おかしい。ここでも会話しました。

小越先生：非常に大事な指摘だ。

ゼン先生：それから、半固形を注入する患者は、麻痺のある患者も多いから、握力の問題もあるし、ENFit はねじる必要がある



↑左の千代の富士と千代の山の像は、レンタカーで函館から松前へ行く途中で見つけました。北の湖像は、洞爺湖畔で見つけました。私の千代の名横綱は、やはり、北の湖と千代の富士です。北の湖は私より1歳上（昭和28年生まれ）、千代の富士は1歳下（昭和30年生まれ）です。二人とも強かった。千代の富士のほうが人気がありましたね。千代の富士の像、北の湖の像、まだ別の所にもあるそうです。コロナが収束したら、探しに行きたい！



↑もう何年も前にこの本を読みました。15歳、体重68kgで入門してからめきめき強くなった、どうこういっても大変な努力だったはず。いろいろ評価はありますが、やはり、強い横綱でした。どこかに銅像が作られるでしょうね。モンゴルでしょうか。私、白鵬は他の力士と比べて、立ち合いの格好がいいと思うのです。お尻の位置が低いし、背中が伸びている、そこにも強さの秘密があるのではないかと考えていました。蹲踞の姿勢がいいんですよ。

ので、それも困難だ、と指摘していました。パラリンピックの、障害者の程度によって基準が違うことを引き合いに出して、障碍のある人が注入できないような規格はダメだ、と主張していました。

小越先生：なるほど。

ゼン先生：細かく握力のデータも出していたので説得力がありました。

小越先生：そうか。現場で見ているんだから、強い主張だな。

ゼン先生：そうですね。ENFitからL-Fitに変更して問題はない、との発表は、丸山先生と、看護師さんの発表だけでした。自治医大の看護師さんの発表で、ミキサー食は力が必要だけど、上から押すようにすればいける、と発表していましたが・・・。

小越先生：上から押す？よくわからない。

ゼン先生：私もわかるような、わからないような。写真で説明して欲しいと思いました。

小越先生：確かに。

ゼン先生：それからもう一人の看護師さんがエンフィットの紫色が栄養のイメージとかけ離れているので食欲減退につながるのではないか？というコメントを発表しました。

小越先生：実は、オレも紫色はよくないと思っていたんだよ。

ゼン先生：私もです。決まっているんだから仕方ないと思っていました。

小越先生：イメージとしては、暖色だろうな。

ゼン先生：そうですね。クリーム色なんかいいんじゃないでしょうか。

小越先生：オレンジっぽい色もいいんじゃないか？

ゼン先生：肌色ですか？

小越先生：肌色は差別用語だから使わないように、とオレに教えてくれたのは君じゃなかったかな？

ゼン先生：そうでした。すみません。

小越先生：この議論は無駄だ。紫色に決まっているんだから。

ゼン先生：それから、半固形の高粘度製品が注入できないとなると、粘度の低い製品や液状製剤に変更する恐れがある。そうすると、誤嚥性肺炎が増える、これも問題だと言っていました。

小越先生：その通りだ。安全管理上も問題だな。

ゼン先生：座長の長尾先生は安全管理の専門家だから、この意見は影響がありそうです。だから、PEG・在宅医療学会はエンフィットの導入に毅然とNOという対応をとるべきである、と主張していました。

小越先生：なるほど。主張には筋が通っている。

ゼン先生：しかし、既にかかなりの施設がエンフィットに変更しています。ここでどう対応するか、難しいですね。

小越先生：たとえL-Fitを残すと決めても適応範囲の決め方が難しい。

ゼン先生：そうですね。半固形製剤の場合は粘度が20000以上、それとミキサー食はL-Fitでいい、そう決めることができるでしょうか。

小越先生：基準の設定が非常に難しいのは間違いないな。

ゼン先生：すっきりとは決められないでしょう。

小越先生：しかし、L-Fitを残すと決めたら、それはそれで、なんとか基準を作ることはできるはずだ。しかも、誤接続問題はどう転んでも解決できているんだからな。

【今回のまとめ】

1. COVID-19 陽性者数が急激に減りました。しかし、なぜ？これは解決していません。この状態で緊急事態宣言など完全に解除。これでコロナは大丈夫、解決した、そう思う人が多くなるのでしょうか。心配です。
2. 大谷選手にホームラン王になって欲しい、10勝して欲しい。照ノ富士や白鵬を上回る日本人力士はいないのか？日本人、がんばれ！
3. まもなくエンフィットの患者側洗浄器具を発売します。新しい発想で開発しました。使ってみてください。
4. エンフィットへの移行、非常に困る領域があります。そもそも、ISO80369-3の適応範囲は液体と気体だけなんです。半固形状流動食やミキサー食は適応範囲ではないのです。
5. 半固形状流動食やミキサー食を使う患者さんのことを考えたら、エルフィットを残すべきです。その適応基準をどう決めるか、そこをしっかりと議論すればいいと思います。